

2025_1226 「クリスマスのオーロラ」日々の理科 4156 号

お茶の水女子大学 サイエンス&エデュケーション研究所 田中 千尋

雪に覆われた スウェーデン北極圏にある Porjus 駅 の静かな構内に、クリスマスの夜、norrsken——北の光が現れました。人の気配も音も吸い込むような闇の中、空だけがゆっくりと息づき、緑の光が大きな弧を描いて流れていきます。スウェーデン語でオーロラを意味する norrsken (ノルシェーン) は、「北」と「光」をそのまま結び合わせた言葉です。その名の通り、ここではオーロラは特別な奇跡ではなく、北の大地がもたらす自然な出来事として、音もなく静かに現れます。

Porjus 駅は、恐らく世界でも最もオーロラに出会いやすい駅の一つでしょう。人工の明かりがほとんど届かず、空と地平線の境界が溶け合うこの場所では、星々とオーロラが同じ重さで夜空に浮かびます。クリスマスという祝祭の夜でさえ、光は声高に祝うことなく、ただ淡く揺らめき、見る者的心を静めていきます。norrsken——それは北の冬が、人々にそっと差し出す、最も穏やかで、最も深い贈り物なのです。

(2025 年 12 月下旬／スウェーデン・ヨックモック郡・ポルユス駅／東京から遠隔観測)

